

仙台城跡とその周辺の自然的環境

1 仙台市の位置と市勢

北緯 38° 15′、東経 140° 52′（市役所の位置）

面積 788 平方キロ

人口 1,080,263 人（平成 29 年 4 月 1 日現在）

2 仙台市の気候

季節の区分は比較的明確であり、豊かな自然景観の色どりに春夏秋冬の変化を見せている。

仙台市の夏は、太平洋で発達した小笠原気団より、多くの湿気をもった南東風が吹きこんで、高温で多湿の気候になる。一方、冬は、大陸北方で発達したシベリア気団による北西風が季節風として吹き込み、低温で乾燥の気候となる。仙台管区気象台の資料によると、最近 30 年の気象概況は、年平均気温 11.9℃、年降水量 1,204 ミリである。暖かさの指数は 92.4 度となる。（暖かさの指数：各月平均気温から 5℃を引いた 1 年間合計の値。暖かさの指数で植物帯を表すと、常緑針葉樹林帯は 15～（45 - 55）、落葉広葉樹林帯は（45 - 55）～85、照葉樹林帯は 85～180。気候的には、冷温帯と温暖帯の境が 85 度となる。）仙台はやや暖温帯に入った気候の特徴を示している。

（参考『仙台市史特別編 1 自然』平成 6 年）

気象データ（平成 27 年 仙台市ホームページ公表資料より）

年平均気温 13.7 度（最高 36.6 度、最低 -4.3 度）

年間降水量 1,444.5 ミリ

最深積雪量 23 センチ（1 月）

3 仙台城跡の地形

仙台城跡は、仙台の中心市街地の西方にある青葉山丘陵の広瀬河畔に面する先端部に位置している。

青葉山丘陵は仙台市街地の南西方に位置し、鮮新統の仙台層群と中部更新統青葉山層で構成される。丘頂部には 4 面の高位段丘面（高位より青葉山 I～IV 面）が分布し、南西から北東にかけて高度を減じている。標高は青葉山 I 面で 190～200m 程度、青葉山 IV 面で 90～120m 程度を示す。小河川による開析はそれほど進行していないが、例外として竜の口沢のみが深い峡谷をなす。青葉山丘陵の南東縁は、長町一利府線に限られ低地と接している。また、長町一利府線とその副断層である大年寺・鹿落坂両断層は、青葉山面（丘陵）に変位をもたらし、大年寺山付近には隆起帯が形成されている。

城の各曲輪は段丘面に位置しており、本丸は青葉山段丘、二の丸は仙台上町段丘、三の丸、追廻地区は仙台下町段丘にあたる。

（参考『仙台市史 特別編 1 自然』平成 6 年 3 月）

4 仙台城跡の地質

「仙台城址付近には第三系鮮新統の仙台層群と第四系中部更新統の青葉山層、上部更新統の愛島

火山灰、永野火山灰が分布している。」(※「仙台市史」では、鮮新世、更新世と表記)

(参考『仙台城址の自然』平成2年3月)

5 仙台城跡の植生

『仙台城址の自然 - 仙台城跡自然環境総合調査報告 - 』(仙台市教育委員会 平成2年(1990)3月)より抜粋

(1) 東北大学理学部附属植物園

青葉山の北斜面、竜の口側の南斜面にはモミ林がよく発達している。尾根上には所々にアカマツ林が見られ、それより下方のやや乾いた斜面にはコナラ林がよく発達している。このように園内はほとんどがモミやアカマツの自然林とコナラの二次林で、これにブナやイヌブナなどが混在する。モミ・イヌブナ林にはアカガシ、シラカシ、ウラジログシ、アラカシ等のカシ類もよく混じり、温暖帯林から冷温帯林への移行帯の中間温帯林である。沢筋ではサワシバ、アカシデ、イヌシデなども多く混じる。

これらの森林の一部はこの地が東北大学に移管される以前には薪炭材として間伐されたところもあったようだが、植物園として保護された結果、現在では本来の森林がよく回復している。カヤラン、マツラン、ノキシノブ、ヒメノキシノブなどの着生植物が豊富に見られることもこれら森林の発達状態の良さを物語っていると思われる。ササの発達は比較的悪いが、竜の口側のモミ林の林床にはスズタケが非常によく繁茂している。また、やや湿った斜面や谷底では下層木としてアオキやイヌツゲが非常によく生育している。林床にはヒメノヤガラ、ムヨウラン、ユウシュンランやハクウンランなどの珍しいラン科植物、オヤリハグマやセンダイトウヒレン等が見られる。

アカマツ林やコナラ林等の明るい林床ではヒメシャガがよく見られ、竜の口側では小規模だがサクラソウの群生地が確認された。また沢筋ではオオケタネツケバナ、ミズ、ウワバミソウ、ニッコウネコノメ、ヤマネコノメソウ等がみられる。

深沢の周辺と本沢の一部にはスギの小規模な植林地があり、シダ類が他所より豊富に見られる。正門付近、見晴台、望洋台には芝生があり、また、ロックガーデンが正門付近にある。陽地性の草本はこれらのところ以外では現在ではあまり見られない。本沢の下流はせき止められて池となり、コバノヒルムシロ、ヘラオモダカ等の水生植物がみられる。

他に、コケ類が豊富に見られる。

(2) 仙台城本丸・三の丸跡

本丸では、本丸会館裏の小山にやや自然の景観が残されているにすぎない。この小山は一部スギが植林されている他は、ケヤキ、イヌシデ、コナラ等の主として落葉高木に覆われるが、南斜面の埋門付近にアカガシやシロダモが混ざり、西側はモミやカヤも目だつ。低木層にはイヌツゲやアオキ、シロダモ、林床にはヤブランが目だつがアヅマザサやアズマネザサも入り込んでおり、南側の道路沿いにはウラシマソウが多い。ここ以外の境内にはアカマツ、モミ等の針葉樹とイヌシデ、コナラ、イタヤカエデ等の落葉高木が疎らに生育している。これらの多くは植えたものであろうが、一部は自然のものをそのまま残したのであろう。また、サクラ類、タカオカエデ、ヒノキ等の高木のほか、サンゴジュ、ネズミモチ、アセビ等の常緑低木がよく植えられている。境内の南側にはコ

ナラ、イタヤカエデ、ホオノキ、クマシデ、エノキ、イヌツゲ、シロダモ、アズマネザサ、ヤブコウジ、ヤブラン、ジャノヒゲなどからなる小規模の林がある。また石垣にはノキシノブ、ヒメユキシノブ、ユキノシタがよく着生している。

埋門から川内への急斜面をくだる道路沿いにはアカマツ、スギやヒノキがところどころに植えられているほか、ケヤキやモミも残っている。低木層にシロダモとアオキがよく目だつ。夏には淡緑黄色の大きな花を沢山つけたウバユリが林立する。

三の丸跡ではこの地域のかんりの部分が博物館の敷地になっており、自然の植生がほとんど残っていない。五色沼の周辺にはアカマツ、アカシデ、シロヤナギ、エノキ、ヤマグワ、オニグルミ、シロダモ、コナラ、ネムノキ、ケンボナシ、ミズキ、ヤブデマリ、オオイタドリ、ヤブコウジなどが生育し、ヤマザクラ、ソメイヨシノ、トチノキやスギなどが植えられている。博物館裏のスギの植林下の斜面にはリュウメンシダが群生し、オオケタネツケバナも見られる。

石垣にはケギボウシゴケが大群落を作っている。

(3) 川内・追廻

川内地区、追廻地区は建築物、芝生、グラウンド、舗装道路の占める割合が大きい、メタセコイア、ヒマラヤスギ、ユリノキ、サクラ類、ポプラとヤナギ類、ケヤキなどの多種類の街路樹が多数植えられている。また、住宅の周囲には多くの園芸植物が栽培されている。野生の植物としては植え込みや庭先にオオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ、オランダミミナグサ、アカミタンポポ、セイヨウタンポポ、ノボロギクなどの帰化植物やスズメノカタビラ、タチタネツケバナなどの在来種が見られる。また、路傍では、カモガヤ、イヌムギ、ヒメムカシヨモギオオアレチギク、ヒメジョオンなどの帰化植物が草むらを作っている。川内記念講堂や東北大学キャンパス付近の芝生には、パッチ状にサギゴケ、ヤブタバコ、オニタバコ、チチコグサ、ヤマイ、クサイ、ヒメクグなどが生育している。

全体としてこの地区は人為的な環境であるが、川内記念講堂の裏から残飯沢の斜面にかけては、胸高直径 60 cm におよぶモミやケヤキを交えた小規模な林が残っている。この林には植栽のスギも混ざっているが、シラカシ、シロダモ、カヤ、イヌツゲ、アオキなどが見られ、ところどころにアズマネザサが入り込んでいる。またツルマサキやキツタなどの樹幹を這上がるつる植物の生育も概して良い。残飯沢の岸边にはオドリコソウやタネツケバナ、ネコノメソウが見られる。

コケ類には人為的影響が強い。

(4) 竜の口溪谷

竜の口溪谷の両岸の急峻な斜面には地形的極相林であるアカシデ林が帯状に成立し、また自然崖にはススキも見られる。切り立った崖の壁面にはタヌキランやダイヤモンドソウが着生し、壁面の中腹から谷底にかけてはツクシハギやキハギが多く、また両者の雑種と思われるものが数株発見された。川岸では高木はあまり見られず、わずかにクリ、コナラ、アカガシ、アカシデ、エドヒガン等がところどころで見られるが、発育は悪い。また、川岸の砂や砂泥の堆積したところではアズマネザサやミヤギザサが群落を作り、やや安定した日陰のところではスズタケにおきかわる。ササ類の群落の発達の悪いところでは、タニウツギやアカメガシワやオオイタドリ、シラネセンキュウ等雅見られ、やや安定した台地上ではシロダモ、アオキ、イヌツゲ等の常緑低木が疎らに生える。やや

乾いた岩上にはシロヤナギ、イヌコリヤナギ、タチヤナギ等が散生している。

他に様々なコケ類が見られる。

(5) 希少種

希少種として、植物園内でコバルノヒルムシロ、ヒメシャガ、タコノアシ、サクラソウが生育しており、大手門脇櫓付近でフジバカマが採集されている。

6 仙台城跡に生息する動物

(1) 哺乳類

モグラ科ホンシュウヒミズ、アズマモグラ、ヒナコウモリ科ニホンヤマコウモリ、リス科ニホンリス、ニッコウムササビ、ホンシュウモモンガ、ネズミ科ホンドハタネズミ、ホンドアカネズミ、ホンドヒメネズミ、イヌ科ホンドタヌキ、イタチ科ホンドイタチ、ホンドテン、ジャコウネコ科ハクビシン、ウサギ科トウホクノウサギ、クマ科ニホンツキノワグマ、ウシ科ニホンカモシカ

(2) 鳥類

①二の丸跡

ゴイサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、トビ、キジ、ユリカモメ、キジバト、アオゲラ、アカゲラ、コゲラ、ツバメ、イワツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、エナガ、シジュウカラ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、コムクドリ、ムクドリ、カケス、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、アヒル、ドバト

②本丸・三の丸跡

ゴイサギ、マガモ、カルガモ、トビ、ハイタカ、チョウゲンボウ、キジ、キジバト、カッコウ、ホトトギス、アオバズク、アマツバメ、ヤマセミ、カワセミ、アカゲラ、コゲラ、ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、カワガラス、ミソサザイ、ジョウビタキ、ツグミ、ヤブサメ、ウグイス、メボソムシクイ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、キクイタダキ、エナガ、コガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、クロジ、カワラヒワ、マヒワ、ベニマシコ、シメ、スズメ、コムクドリ、ムクドリ、カケス、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト、アヒル

③御裏林

カルガモ、トビ、オオタカ、チョウゲンボウ、ヤマドリ、キジ、キジバト、ホトトギス、カワセミ、アオゲラ、アカゲラ、コゲラ、ツバメ、イワツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、モズ、ミソサザイ、ノゴマ、ルリビタキ、ジョウビタキ、トラツグミ、クロツグミ、シロハラ、ツグミ、ヤブサメ、ウグイス、メボソムシクイ、センダイムシクイ、キクイタダキ、キビタキ、オオルリ、サンコウチョウ、エナガ、コガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、ミヤマホオジロ、アオジ、カワラヒワ、マヒワ、ベニマシコ、シメ、スズメ、コムクドリ、カケス、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

④竜の口溪谷

カルガモ、トビ、オオタカ、キジ、キジバト、アカゲラ、コゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、

セグロセキレイ、ヒヨドリ、カヤクグリ、ジョウビタキ、オオルリ、エナガ、コガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、メジロ、カシラダカ、アオジ、クロジ、ハギマシコ、ベニマシコ、スズメ、カケス、ハシブトガラス

※オオタカは絶滅危惧種だったが、平成 18 年以降は「準絶滅危惧種」（存続基盤がぜい弱な種）として取り扱われている。